

土岐川グリーンベルト通信 第106号

令和3年度「笠原の森」笠原中学校による活動報告

土岐川流域グリーンベルト活動とは

多治見市・土岐市の「市街地に隣接する樹林地」を「土砂災害に強く、自然環境や景観が豊かな樹林地（グリーンベルト）として保全・創出すること」を目的とし、多治見市等地域と連携して活動しています。

笠原中学校での取り組み

笠原中学校の1年生56名が、ふるさとの森「笠原の森」を舞台に、土砂災害と樹木の働き、樹林整備の意義を学ぶための学習、土砂災害に強い樹林を目指した樹林整備活動に取り組みました。

この活動は、多治見砂防国道事務所、多治見市の支援のもと実施しました。

○学習会 10月29日

室内学習「砂防のはなし」「森のはなし」「ハザードマップの確認」
野外学習「土石流模型実験」

○観察会 11月4日

野外学習「砂防堰堤の見学」「土の観察」
「木の観察」「玉切り体験」

○樹林整備活動 11月10日

野外学習「樹林整備（常緑低木や成長の悪い木の伐採）」



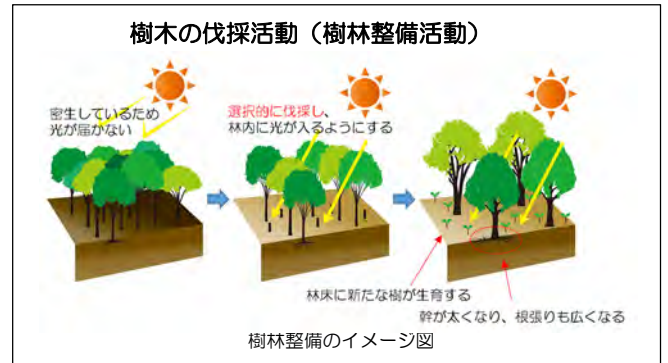
10/29 学習会（森に入る前の事前学習）

強くて豊かな樹林にするために

多治見市では、陶土の採掘等によって「はげ山」が広がっていました。「はげ山」では、少しの雨で大量の「土砂」が流出し、下流域では洪水被害が頻発していました。はげ山からの土砂の流出を軽減するため、砂防事業等による緑化対策に取り組み、緑が回復しました。

緑は回復しましたが、「笠原の森」は林床が暗く植物が芽生えにくい環境であるため、樹林が備えるさまざまな効果が期待できない状況となっています。

そのため、土砂災害が発生しないような「強くて明るい樹林づくり」が必要です。



砂防・森のはなし



「砂防・森のはなし」では、樹林地が荒廃していた歴史や樹林整備の必要性を学びました。

ハザードマップの活用



多治見市の職員より、ハザードマップを説明していただき、危険箇所を確認しました。

土石流模型実験



砂防堰堤によって、下流側にある家屋等への被害が軽減されるようすを模型実験で学びました。

11/4 観察会

観察会では、「笠原の森」の中にある砂防堰堤を見学してその役割を学びました。また、土や木の観察を通して「笠原の森」に触れ合うとともに、森の中には暗い場所や成長の悪い木があることを知り、樹林整備活動が必要であることを学びました。最後に、玉切り体験を通して、次の樹林整備活動に向けてノコギリと剪定バサミの使い方を練習しました。

砂防堰堤の見学



土や木の観察



玉切り体験



11/10 樹林整備活動

樹林整備活動では、多治見砂防国道事務所や多治見市の職員の指導のもとで実際に木の伐採作業を行いました。活動前には装備や伐採時の注意点を確認し、ケガなく安全に活動を行うことができました。活動を通して、森の中が明るくなったことを実感するとともに、残された木がこれから大きく育つことで土砂災害を抑える効果が高くなることを学びました。

危険予知活動



伐採作業



玉切り作業



〇生徒のコメント（一部抜粋）

- ・笠原の森を、土砂災害を防ぐことができる自然豊かな山にしていきたい。みんなで楽しく遊べる山にしたい。
- ・砂防えん堤には、土砂の流出を止める働きがあり、土砂がたまると水深が浅くなり被害を少なくする仕組みがあることを知った。上原の墓地で、実際に砂防えん堤を見ることができた。
- ・ハザードマップを見ると、笠原には危ない場所が多いことが分かった。
- ・樹林整備活動では、今まで勉強してやってきた成果が出たし、みんなで協力して慎重にできたのでよかった。
- ・今まで木を切る経験はなかったけれど、たくさん勉強したうえで木を切ることができてよかった。

- 〇笠原の森グリーンベルト活動の経緯
平成12年：活動開始（講義、歩道計画、歩道整備等）
平成14年：樹林整備開始
- 〇過去の主な支援者
多治見市教育総務課、岐阜大学、NPO 鎮守の森、
市之倉森づくり合同部会、
多治見さほう・みちボランティアクラブなど

作成者・お問い合わせ先

国土交通省 中部地方整備局

多治見砂防国道事務所

〒507-0023 岐阜県多治見市小田町4-8-6

TEL : (0572) 25-8020

<http://www.cbr.mlit.go.jp/tajimi/>